



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

1996・97年度国際ロータリー・テーマ

国際ロータリー会長 ルイス・ピセンテ・ジア



1. 先達の歩みに敬意を払うことによって未来を築こう
2. 会員増強で未来を築こう
3. 職業奉仕の質を高めることによって未来を築こう
4. 次の世代を準備することによって未来を築こう
5. 平和な都市づくりに尽力し、未来を築こう
6. ロータリー財団を支援することによって未来を築こう

ロータリー雑誌月間

第455回 平成9年4月11日(金)

[本日のプログラム]

1. 点 鐘
2. ロータリーソング
「それでこそロータリー」
3. 食 事
4. 会 長 の 時 間
5. 幹 事 報 告
6. 各 委 員 会 報 告
7. 4 月 セ レ モ ニ ー
8. 会 員 卓 話 福井輝文君
9. 点 鐘

次 回 予 告

* 4月18日(金)

会 員 卓 話

吉田康一郎君

* 4月26日(金)

会 員 増 強 委 員 会

百万\$の食事

佐土原ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日(12:30~13:30)

会 長 伊東忠寛

例会場 石崎浜荘 ☎0985-73-1913

副会長 徳丸彰一

事務局 宮崎郡佐土原町大字下田島20614-

幹 事 赤木達也

佐土原町建築業協会内

会 計 宮原建樹

☎880-02 ☎(FAX)0985-73-7170

会 報 委 員 垂水敏雄

第454回例会記録

1997. 4. 4

☆会長より 伊東 忠寛 君

1 会長の時間

◎ 佐土原RC観桜会について

恒例のクラブ観桜会を計画に基づいて開催させていただきます。
この時期は、例年天候の心配があり会場の選定などについて親睦委員長が頭を痛めますが、今年度は全天候型で対応していただくことになり、ここ『石崎浜荘』で開催することになりました。
ちょっと桜の木が少ないようですが、満開の「そめいよしの」の枝2本が雰囲気を出しているようです。

『為すべきを 果たして 今日の 花見かな…』

3月は企業年度の締め括り、4月は新年度を迎えますが、充実感に浸りながら新年度に対する決意を新たにする…今日の観桜会ではないでしょうか。

今年度は『佐土原RC創立10周年』という一大行事と取り組むことになっています。

酒間において、おおいに議論していただきたいと思います。

親睦委員長の林君、SAAの田村君のご高配に対して感謝いたします。 次回4月11日は、夜間例会です。

☆幹事報告

赤木 達也 君

本日は連絡、報告事項はありません。
特製バーベキューで、10周年記念行事への英気を十分養っておいてください。



☆出席報告

委員長 山本民生君

会 員 数	29名
H C出席者数	29名
欠 席 者 数	0名
出 席 率	100%

ロータリー財団について (特に国際親善奨学金について)

1947年に創始されてから50周年目を迎えた奨学金制度は、いま民間の国際育英制度としては世界最大級のものとなっている。

ロータリー財団は一貫して世界理解、親善と平和の増進を目的としている。地域社会の発展の為に活動している小さなクラブにとって、ロータリー財団は世界への窓である。そしてこの窓を通じて世界の他のクラブ、地域社会と一つにつながって国際奉仕を行なっている。

財団に対する寄付をはじめ金銭面での支援は勿論不可欠である。しかしそれは財団を強化し、発展させる多くの活動の中のほんの一つに過ぎない。

寄付以外の活動として、優秀な財団奨学生候補を推薦すること、若く有望な実業人、専門職業人のなかから研究グループ交換チーム(GSE)のメンバーを選ぶこと、海外から地元へ留学中の財団奨学生を家庭に招くこと、財団特別補助金あるひは3-Hプログラム補助金を受けて、発展途上国の農村開発を助けること、専門的知識技術をもつボランティアを発展途上国に派遣すること、あるいは自分自身がそのボランティアになることなどがあげられる。

R財団の奨学金により海外に留学した大学生、大学院生 その他は年間(一年間は299人、二年間27人、三年間7人)約333人(1993年)これまでの累計数は推定4,600人となります。

これらの奨学生の中からは緒方貞子国連高等弁務官、宮野成二福岡大学学長、猪口邦子上智大学教授、フランスのプザンソンで開催の国際指揮者コンクールで女性指揮者として世界初の優勝者松尾葉子氏、ほか多数の人材を輩出しています。

4月は雑誌月間

現在ロータリー世界では「友」のような地域雑誌が27誌発行されています。このうち公式地域雑誌としてRIより承認されているのは「友」をふくめて20誌あります。

公式地域雑誌の制度は1977年規定審議会の決定により創設されました。この制度はRIが一定の要件にかなう地域雑誌を公式地域雑誌として認め、その購読を会員に義務づけ、それによって重要なロータリー情報をより早く、広く普及するためのものです。一定の要件とは、(1)RIの指定する記事を掲載すること(2)年間最低4回以上出版される雑誌であること(3)記事内容の

50%以上がロータリーに関するものであることなどです。

RIが掲載を指定する記事の内容は、ロータリアン誌掲載の記事あるいはRIの重要な情報などです。「友」のような月刊誌は、月ごとに掲載記事を指定されます。

「友」が公式地域雑誌として承認されたのは1980年7月で、全世界で3番目でした。ちなみに1番目は1978年承認の豪州のロータリー・ダウン・アンダー誌、2番目はその翌年承認のロータリー・アフリカです。

どうしてヨコとタテなのか

ところで、多くの会員とくに新会員の方は、本誌がどうして横組と縦組に分かれているのか不思議に思っておられることでしょう。昭和28年1月「友」創刊のとき、ヨコにするかタテにするか編集関係者の意見が分かれ、当時の全会員の一般投票を行ったところ、2対1の割合でヨコに決まったとのこと。それがどうして現在のようにヨコとタテに分かれたのか。またロータリー情報関係の記事が横組、一般的記事が縦組なのはどういうわけなのか。約20年前、横組は読みづらい、全部縦組に変えよとの要望が強まりました。一方変更不要論もまた根強く、結局両論を折衷、一般的記事のみ縦組という現在の形に落ち着いたわけです。

ロータリーの友英語版もご活用下さい

「友」英語版は誌名が本誌と同じため、本誌の記事をそのまま英訳したものだと思っている会員もいるようです。R Iからも認知され、来年は創刊15周年を迎えるこの英語版の存在すら知らない人もいます。面白いことに、海外の一般会員は、「友」といえば英語版の Tomo のことだと思っているようです。英語版は、本誌掲載記事の転載以外に日本の経済、産業、芸術、文化その他一般事情の紹介記事や、日本のRの世界社会奉仕実績なども掲載しています。

<p>オーストラリア 月刊 ROTARY DOWN UNDER 1978年R I承認 A 4判変形 表紙共36ページ 英語 発行部数49,399 1965年創刊</p>	<p>南アフリカ 月刊 ROTARY AFRICA 1979年R I承認 A 4判 表紙共24ページ 英語 発行部数8,000 1926年創刊</p>
<p>メキシコ 隔月刊 ROTARISMO EN MEXICO 1981年R I承認 A 4判変形 表紙共52ページ スペイン語 発行部数11,000 1974年創刊</p>	<p>フィリピン 月刊 PHILIPPINE ROTARY 1981年R I承認 B 5判変形 表紙共36ページ 英語 発行部数10,000 1977年創刊</p>

★4月18日の例会は、100%出席目標日です。

10年連続して100%出席

愛知県 犬山クラブ

ロータリーの基本が、例会出席にあることは論をまたない。当然ながら重味を増してくるのがクラブ出席率であるが、10年連続100%出席の金字塔をたてているのが犬山クラブである。

犬山クラブは、1961年(昭和36年)の創立、会員数75人。国際親善の推進で意義ある業績賞に輝いたこともあるが、こうしたクラブの活性的な根源は、例会出席に対する会員の自覚と並々ならぬ熱意の結果であることは言うまでもない。

以下は、今年度の服部英二郎会長の「10年連続100%達成」の言葉です。

「私たちのクラブでは今や出席率100%達成がクラブの伝統となり、永年にわたり、その達成が維持されています。会員全員の協力によるもので大いに誇りとしているところであります。決して強制しているわけではありませんが、会員全員の自覚によるものと思っています。これは例会に出席することによって、会員相互の親睦がはかられるとともに、奉仕の理想の推進につながるものであることを念頭に置いて活動を行っているためであります。」